

## 平成26年度第2回江南区郷土資料館運営協議会議事録概要

平成27年3月16日（月） 午前10時30分～  
江南区郷土資料館 展示室

出席者（委員10名）

森田一郎・熊谷喜作・和田和之・志賀恒一・小林洋一・阿部兵一・和澄徹  
・田村和子・勝山陽子・池田栄子

事務局：小林達弥・齋藤昭・榎本博

- 1 あいさつ ・江南区郷土資料館運営協議会委員長  
・江南区郷土資料館館長

### 2 協議

- ①平成27年度江南区郷土資料館実施事業について  
（事務局・館長説明要旨・資料1に基づいて説明）

・先般、11月の会議で、どういう事業があるのか、事前に知らせてもらえば有り難いなあというようなご意見をいただきましたので、こんなことを考えているということで、ご参考までに書いておきました。

・1番の方は継続事業であります。毎月第4土曜日で語り部サークルの皆さんから、郷土史講座は来年度も継続して月1回、4回シリーズで来年度は曾野木地区を計画しております。来年度は曾野木地区の野上正栄先生からお話をさせていただき予定です。先生は亀田西中学校の校長を退職され、特に浪花節の寿々木米若のことについて研究されている方です。早く「区だより」に掲載して皆さんに周知、希望を取りたいと思って考えております。

・俳句展は継続してやりたいと思います。新しい事業として夏休みの期間下旬頃に縄文火おこし体験教室的なことをできればと。これは市の文化財センターの協力を得て実施する予定です。勾玉、縄文土器づくりも継続して実施します。

・5番目にありますように、8月下旬ないしは9月上旬に館内燻蒸を計画をし

ております。そこで区民が所蔵する古文書、書画、骨董、文化財そういったものを一緒に燻蒸して差し上げれば、文化財の保存・管理に資するものではないかなということで、来年度もやりたいと思っております。今年度は試行としてやらせていただきましたけども、来年度は広く呼びかけてやりたいと思っております。勿論、我々の手に負えないようなものはお断りする場合もありかもしれませんが、原則的には実施し、保存・管理に資するように考えております。

- ・6番の移動美術館は継続して今年度も新津美術館と共催で、9月に実施させていただきます。

- ・新しい事業として江南区郷土資料館歴史講座を10月ないしは11月ころに考えております。江南区という地域に絞るだけでなく、広く新潟県内で生じた歴史的な事柄について、原始古代から現代のことにかけて、テーマを設定してお話してもらう講座を考えております。8月ぐらいには講師を決めて、これも「区だより」に掲載して皆さんにお知らせし、お聞き願おうかなと考えております。

- ・今年度実施した「江南区の隠れたる名品展」、これも継続して「名品展Ⅱ」ということでやりたいと思います。今年度はボランティアの方々の人づてで作品を募集したわけですが、来年度は広く広報で呼びかけたいと考えています。

- ・新規事業として学年末いわゆる3月休みに、「竹とんぼづくり教室」を考えています。このような事業で小学生のみなさんが資料館に親しみを持って資料館に来ていただくというきっかけづくりになればなあと考えております。講師は阿部誠也さんという江南高校の美術の先生をされた方で、江南高校の校章をデザインされた方です。

- ・他に単発的に「和田大明名作展」ということで個人の協力を得て展示を考えております。

- ・さらに今年度江南区の亀田郷の乾田化前の農業の実態を示すような写真展をやる予定だったわけですが、量的にはまだ不足しており実施出来ませんでした。来年度は写真を提供いただけるというような目途がつかいましたし、土地改良区の方からも協力いただこうと考えております。いつにするかは決めていませんが、江南区の亀田郷の農業の実態を示すような写真展を計画していることを付け加えておきます。古い写真をお持ちの方、情報がありましたら是非お聞かせ

いただければありがたいです。

(委員長)

只今、館長さんの方から来年度の予定事業についていろいろありましたが、ご質問ある方いらっしゃいますか。

(委員)

ボランティアを少しお手伝いして感じたことですが、例えば、昔江南区に住んでいた竹馬の友、おじいちゃんとおばあちゃんが同級会みたいにして「昔こんなもの使ってたよね、こんなのわかる」と言って3、4人で楽しげにまわってくる。何やら20代位で、大学院の研究室から来たみたいな人が難しそうな顔をして真剣に見て、近づこうものなら怒られそうなくらいじっと見ている本当の研究派の人たち。40代、50代もおられますが、意外に20代の若い方です。学生風の方などもおられます。ここのイベントがある時はホールにどっと人が来るわけですけど、子ども向けのイベントが結構あるようで、小学生などを若い母親が連れてきて「帰りしなにちょっと行ってみよう」というような雰囲気やってきて、ここを通りながら私は微笑ましく見ているんです。親子の絆なんて大げさでないにしても、いい家庭の雰囲気作りをしているんだなという感じで、特にいろいろの部屋あたりで「これ何だ」と興味深くボランティアに質問したりしています。おおざっぱに通年見ておりました、それなりに愛されている建物だろうと思うんです。

また、1月~2月に掛け軸、お宝を見に来られた方で60代、70代という覺しき年配の方で、本当に掛け軸を好きだという人たちは、もう御高齢なわけですね。そういう人に聞くと3回目だということで、同じものをじっと眺めているんです。「先日も来た」という方もおられて、これはこれでお年寄りの生き甲斐のような場所になっているかなと。ここに書いてありますが、大事なものを扱いが悪いようなことが書いてありますが、館長さんの指示で張り付いているわけですよ。空白にしておいて破っていったということがあると悪いから少々お手伝いもしましたけども、何人入ったかのカウンターを持ちながら入口の所におりました、専門的なことを質問されても私自身はうまく答えられませんが、スタッフの中にも詳しい人もおられます。非常にいい交流の場になっていたなと思って、1月・2月の展示物は良かったかなと思います。

小学生の勉強会のほうも、聞くとところによると昨年来たのと同じところの生徒がまた来たということで、これは悪ければ来ないわけですから、江南区だけでなく、小学生3年生が昔の生活ということで学習する機会があり、5・6年生以降になると歴史も入ってくるので、ちょっとした勉強の場にも十分なる

と思います。いろんな遺跡が年間新聞紙上にでていますが、私は本物がすぐここへ持ち込まれる必要がないけれども、変化を持たせる意味で写真でもいいですから「どこどこにこんなのが発掘された」という情報は、この場を借りていち早く拡大して展示するのもいいかな。そんなことを思います。以上です。

(委員長)

ありがとうございました。実際にここのボランティアとしておられていろいろ感じられたことをお話されて大変参考になります。ありがとうございました。来年度の事業と関わってなんでも結構ですのでもしご意見があったら。どうぞ。

(委員)

どちらでもそうなんですけども、北山でも先人が残してくれた自然、北山池とかですね。大変歴史があり由緒ある文化財としての価値があるといわれている神社・仏閣を大事にしたり、先人を健勝したりという風土があります。私も仲間と一緒に先輩達に混じりまして、村で沢山所蔵されているものを持ち寄って観賞したり、語り合ったりするのをずっと続けていましたが、皆さん高齢化して中断しております。後継者を得るのも難儀をしておりますが、そんなわけで北山にはわりと大事にしたいなあと思うものがあるような気がするわけです。片桐民治さんという農家の方が戦後民具好きが高じて、いろんな文化人や疎開してきた方々と交流を深め、文化サロンという大変聞こえがいいんですけども、農機具小屋の囲炉裏にいろんな方が集まって・・・民治さんは生活の援助にということで、ずいぶんと尽力されました。その関係で具体的な固有名詞でいいますと、小林存先生を始め笠原靱さん、小島丹滢さん、佐藤木草さんなども御縁があったようですし、そんな作家とか、或いはそれとは直接関係がなくとも和田大明という北山出身の誇りの思っている先人画家がおられますし、続木睦二さんという日展に何回も入選しておられた工芸家がおられて、作品が残っております。北山を中心に亀田近郷のものなんかも随分ありますので、展示するお手伝いができるところはさせていただきましようかなということで、提供させてもらっているわけです。「北山の衆」が並べてくれたと解釈していただければと思っております。北山だけでなく他のところもおられるわけですから、折角これだけの設備、お手伝いできればなあというふうな気持ちでおります。

(委員長)

ありがとうございました。いろんな情報を聞かせていただきましてありがとうございます。片桐民治さんは知りませんでした。大変参考になりました。皆さんどうでしょうか。来年の活動に限らず何かご意見お持ちでしたら情報があ

りましたら聞かせていただければ参考になるかと思えます。いかがでございましょう。

(館長)

折角の機会ですので、ここでアンケートについて説明させていただこうと思いますので宜しくお願い致します。

今年度から館内にアンケート用紙を置いております。その結果ですが、江南区の入館者がやはり半分位の方で占められています。展示の仕方がどうだろうかというようなことですが、だいたい「満足」・「やや満足」・「普通」と9割位が評価していただけるかなとそんなふうはこの数値では考えているわけですね。それからどういうコーナーが一番関心持ちましたかというのは、やはり亀田縞、2階の生活用品、遺跡関係これらがビッグ3で、農具の関係がそれに次ぐというような状態です。案外歴史的なことが評価が低いということは、これはパネルで字がずらずら書いてあるだけで、読みづらいというようなこともあるんだろう、これはひと工夫しなければいけないというような表れなんじゃないかなと考えております。2枚目の方に主な意見をのせてありますが、これはアンケートに記載した通り書いてあるものです。真ん中のほうにやや下の方に「何もかもだめだ」とか「字が小さくてつまらないとか」等厳しいご意見がある一方で、評価されるようなご意見もありますので、こういう厳しいご意見にはきちんと受け止めて、来年度以降工夫していかなければいけないのかなとそんなふうを考えております。こういうようなものが書かれていたということをご覧いただければ。以上です。

(委員長)

はい。ありがとうございました。

(館長)

もう一つ、ついでながら既に11月中にもう半分位は報告しておりますが、11月以降の活動について報告します。展示会等では「水郷の花嫁さんは舟で行く」という写真プロジェクト、それから阿賀野川環境学舎が主催したもので、有機水銀水俣病に関するパネル展、最後に「江南区の隠れたる名品展」というのが1月7日から2月5日迄実施し、1,156名の方に来場いただきました。

資料の数値には累計とありますが、いちいちカウンターで数えたものではありません。館内にどれだけ入ったか、例えばパネル展に709という累計がありますが、709名の方が全部このパネル展をご覧になったかということとそうと

は限らないということです。期間中に館内に709名の方が入られましたよ、という数字だということをご承知ください。そういう点からすれば「江南区の隠れたる名品展」の1,156というのは実数ですので、先ほどもお話がありました。全部カウンターで数えたものですから、リピーターの方も何人かおられましたので、盛況だったのではないかなと評価しております。

それから入館者数ですけども、総入館者数は一昨日までは13,787名の方が入館しております。その内訳として、学校・団体は645、その他の団体は113名ということで、内訳がその下にあるとおりです。主な一般団体見学ですが、これも2月1日には亀田公民館主催の綿紡ぎ体験、2月25日には茶話本舗デイサービス大学前百笑生という施設があるんだそうです。そこから来られた方が10名ということです。

前にもお話したと思いますが、老人ホームの方が見学に来られますね。車いすで来られた方が目がイキイキとするんですね。実際自分が使った生活用品が2階に飾ってあるもんですから、それで引率の方に逆に教えているわけです。それで引率の方が大変ありがたい、いつもは自分たちが指示してその通り動いている方が、自ら積極的に私共に働きかけてくれるなんて、こういう施設があるというのが大変ありがたいとそういう評価をいただいております。資料館というものがこんなふうな働きもあるのかなと私も意を強くしたところですが、このような団体見学が来られました。そういうことを補足として説明いたしました。

(委員長)

ありがとうございました。今アンケートと11月以降の活動の様子についてご説明いただきました。いろいろと情報がたくさん入ってまいりましたが、来年度の事業をさらによくするようにお気づきの点は何でも結構ですので、あったら出してくださればありがたいです。はい。どうぞ。

(委員)

はい。私このボランティアをすることになったのは昔の遺跡のことがすごく興味があって、それが一番の理由なんです。昔語りもさせていただいて、すごく有り難いなあと思っております。良くボランティアをしているんですけども、遺跡の方が全然変わりなく最初からひとつも変わっていないんですよ。すぐそこは西郷遺跡という素晴らしい遺跡と発掘品もいっぱいあるので、ちょっとしかなくても、文化財センターにも声をかけてもうちょっと変化をつけた方がいいと思ったりしております。

あと、子供たちに昔の説明をしたりしているんですけど、子供たちはまるっ

きりわからないんですよ。私たちは常に生活していたのでわかるのかなあと  
思いきや、まるつきり解からなくて、例えば「甕」ですと、「かめってなあに」  
とか。また、この前下駄を履かせてみれば、下駄の履き方もわからない、もう  
そんな状態です。2階は生活用品が一杯ございますけど、「手を触れないでくだ  
さい」というものなので、下駄を履いてみたり、石臼を回してみたり、ちょっ  
とでも手で触れられるものも用意しておいたらいいのかなと考えています。ま  
た、たまに子供さんがいらっしゃると昔の茶の間の所を案内するんですけど、  
色んな物があります。一つずつ説明すると良くわかってくださって、すごくい  
い場所だなあとと思うので、やはり見るだけじゃなくて手で触ったり、こうする  
ものだという説得力というのは、特に子供さんにはいいことだと思いますので、  
是非触れる、体験できるということを考えたらいいいのではないかと考えており  
ます。

(委員長)

はい。ありがとうございます。考古資料について、確かにすぐそこに素晴  
らしい遺跡が出ているので、それも含めて今後の課題として、是非文化財セン  
ターにいつて展示替えもしてもらおうことを働きかけるようにしていかなければ  
と思います。

(委員)

びっくりしたんですけど、こういう方もいらっしゃるんですね。「説明いらな  
いわ」と。「なんで説明いらないんですか」って言ったら「この昔の土器を見る  
だけでエネルギー貰いにくるんだ」と言われるんですよ。やっぱり昔のもので  
エネルギー貰いにくるという。私も実はそうなんですけど、そのためにももう  
ちょっと数を増やしていけたら。「もっといっぱいほしいな」とその方も仰っ  
ていました。ついこの間は建築関係の方が「いろいろもっと見たいなあ」と仰っ  
ていましたので「お話しておきますね」ということで終わったんですけど。

(委員長)

はい。ありがとうございます。子供たちが手に触れてみるというのは大変  
いい意見だと思います。甕に何が入ったのか子供たちはわからないんですよ。

(委員)

「かめってなあに」って言うんですよ。

(委員長)

我々は当然だと思ってるんですよ。

(委員)

当然と思っていることがわからないんですよ。

(委員長)

貴重なご意見ありがとうございました。

(事務局)

「置いてあるものを触ってください」ではなくて、先ほども館長が言われたように、月に1回でも展示室に集めて触れる体験会っていうのをやるとか、そういう形でできればいいと考えています。

(委員)

先ほどの意見に少し関連しているんですが、アンケートの中から一つ拾ってみても展示場の割には展示物が少ないというのがあるんですが、多分これはさっき言われた原始・古代のことなのかなあという感じがします。他のコーナーはぎっしりと入ってます。ご存じのようにすべてあれは借り物でして、文化財センターのものをお借りしているのですが、まああれば確かに頼っているとどうしても入れ替えも遅くなるし、特殊な変わったものというのは滅多にないはずですが、縄文の前期・中期・後期・晩期それだけの特徴のあるものがトントンと文化財センターが並べてくれている今の状況なんです。ただ取り替えようとするとこの資料館だけでは大変だと思いますので、文化財センターとのタイアップが強くいるのかなと。

それともうひとつですが、新潟市内では730箇所位の遺跡があって、江南では97箇所位あるんです。特にこの内側の砂丘第一砂丘は遺跡の宝庫でございまして、出土物もかなりあるんですね。そういうのも含めて個人所有になっている出土品もかなりあるんですね。そういうものも働きかけて、個人の方から貸していただくか、寄贈していただくか、こういうことも我々側としてもする必要があると考えています。

それと同時にあれはむき出しで置けませんので、どうしても展示ケースがいります。非常にお金がかかると思うんですけども、ただ借りてもそれを入れる陳列ケースがどうしても必要になってきますので、それらも考えていかないと難しいのかなと。この施設で並べている遺跡は各世代代表的なものですけども、変わり映えしないのは確かにそうです。

それとこのアンケートの中にもありますが、「案内の順序が悪い」、これは皆さん説明されていて気がつく所があると思います。時代順に説明をして行って、一旦戻ってまたここに来るとか、そういうふうなことがないように回ると。年代別に全部網羅できるという点を工夫するのが必要ではないかという感じがしますね。

あと「時間が少なくて残念」、こういう人こそかわいそうだなと。多分これは団体で来られた方だと思いますけど、時間が制約されているので、こちら側から「それぞれのコーナーがあって全部網羅するには何十分必要ですよ」「ここここを見るなら何十分必要ですよ」こういうことを各学校や各団体にわかるように、このような予定で郷土資料館に寄せていただくとか、こういう時間を組んでこようとか、こういうことが可能だと思いますので、それも必要なのかなという感じがします。歴史的に豊富な江南区でございますので、いろんな所からいろんな物を集めて、皆さんの目に触れさせていきたいと。昔の物、特に出土品なんてそうですけども、何千年も土の中に埋まっているものですから、大勢の人から見てもらってようやく日の目にあたるということなんです。こういうこともいろいろ考えていったらいいかなという感じがします。以上です。

(委員長)

はい。ありがとうございます。貴重なご意見いただきまして大変ありがとうございました。確かに個人で持っている土器も出展出来たら面白いんですけども、これからの課題だと思います。ありがとうございます。その他なんでも気づくことがありましたら出していただきたいですが、そろそろ次に移りたいと思います。何かありますか。

(委員)

ひとつ、「写真の場所が差支えなければ知りたい」とか、私なんかも年代と場所と写真の提供者は親切にしてあげた方がいいかなあと。それではつきりわからないのもあるわけですね。西蒲区の稲刈りの写真があるわけです。それを無理やり特定することはないけれども、仮に想像でも「？」を付けてでもいいから、ちょっと身近に感じさせるような親切さがあってもいいかなという感じがします。特にはつきりと提供してくださった写真などについては、提供者の名前があるのが礼儀かなと思った次第です。

(委員長)

ありがとうございます。提供者になるとなかなか難しいんですよね。「出さないでくれ」という方もいらっしゃるのです。

(委員)

ああそうですか。なるほど。

(委員長)

それはいろいろとあるかと思えますけども、場所とかそういうものがわかると確かに興味がさらに湧くかと思えますが。他にございませんか。もう一つ大きな問題がありますので移って宜しゅうございましょうか。2番目の方は今後の「江南区郷土資料館を応援する会」の活動についてのことなんですが、これについて最初に事務局の方からお願いします。

## ②今後の江南区郷土資料館を応援する会の活動について

(事務局)

資料2をご覧いただきたいと思えます。前回の郷土資料館運営協議会の時に今後の活動も見据えて、今郷土資料館を応援する会と協議会を統合して活動していくという話をさせていただきました。まずその会の名称についてですが、今ある「江南区郷土資料館を応援する会」ということで継続して使わせていただきたいなと思っております。

その会の活動内容ですけども、特に小・中学生が団体出来館された時に説明・ガイドボランティアをしていただいています。今までははっきりしていなかったんですけども、地域の宝の掘り起し、資料収集、文化財の所蔵者の情報収集、展示内容の検討など、今後この会の活動ということでしていきたいと思えます。また、先ほどの事業報告にありました、勾玉づくり等体験会の際にサポートしていただくスタッフの仕事をお願いしたいと考えています。

今こうして会合を持っていますが、「今後応援する会になったからもう集まらないのか」と言われると思えますが、今日様々なご意見をいただきましたように、館の運営に対するさまざまな意見・課題等いただいていますので、少なくとも1回は資料館の活動についてご意見をざっくばらんに話し合える場を持ちたいと考えているところです。

ボランティアスタッフジャンパーの作成についてなんですけども、今までボランティアをやっただいてありますが、これからはボランティアの方が活動しやすいような環境整備をしたいと考えておりますので、その一つとしてボランティアスタッフジャンパーを考えています。今名札を下げてもらっていますが、それだとなかなか気づかれないと。来られた方も「話しかけていいのかな」というのが若干あると思うので、明らかにガイドするボランティアだとわかるようなものを作りたいと思えます。

以上ですが、ガイドだけでなく皆さんから常々情報をいただいて、文化財・

資料を持っている方の情報ですとか、今後の資料館の運営に皆さんから引き続き携わっていただきたいと考えております。これ以外にもこの館の運営について意見がありましたら宜しくお願ひしたいと思ひます。以上です。

(委員長)

はい。整理してみますが、運営協議会というのは今回をもってなくなるということでもいいですね。これからは「江南区郷土資料館を応援する会」一本に統一される。今まで運営協議会に入っておられた方はこの会に自動的に入るのか、それともこの会に申込書を使って入ることになるのか、その辺のことはどうなんでしょうか。

(事務局)

私どもとしましては、今後皆さんの力をお借りしたいということです。勿論強制ということではないので、ご協力していただける方は申込用紙に書いていただいて、このまま続けていただければ有り難いと考えています。

(委員長)

宜しゅうございましょうか。ご質問のある方。

(委員)

一応年度初めに全員が出すということですか。

(事務局)

協議会の方でまだ入っていない方は出していただければ。継続される方はもし新しいことを書きたければ書いていただきたいんですけども。

(館長)

私はここにおられる方全員がこの応援する会にご参加いただければ有り難いなあとと思ひます。というのも、学校の生徒さんが来られた時に説明するだけがボランティアではありませんので、特に地域の掘り起し、収集、情報提供いただければ有り難いなあと。そう意味で皆さん方には是非応援していただければなあという気持ちでいるわけです。

(委員長)

他にありませんか。私の理解では応援する会に入るとボランティア活動として、できるだけ来て説明をしたりするような事は難儀だなあという方もいらっ

しゃると思います。例えば年1回かわかりませんが、定期的に会合を持つその時出てきて、今話したような機会に参加するような程度でもいいのでしょうか。「そんな形でも応援する会に入っているのかな」と、その辺がちょっと不安になられるのではないかなあと思います。「出てこい」なんて言われると大変だし、ボランティアとして「説明せよ」なんてのも大変だし、そうでなくて年に1回でもいいが出てきて意見を述べさせていただく立場でも応援しているわけですからね。

(事務局)

先程申し上げたとおり、「毎日来てください」とか「説明してください」とはもちろん言いませんので、皆さん得意分野でご協力いただけるところでお力をいただければありがたいと。

(委員)

用事のある時は、断っていいんですよね。

(事務局)

そういうことです。無理のない範囲で、皆さんそれぞれ得意なところで資料館の運営に関わってくださると非常に有り難いと思います。来れる時に来ていただいて、何か思いついた時にお力を貸していただけたらと思います。

(委員)

名称は「応援する会」ですが、いまやっている会議の形態というのは来年度はどういう形になるんですか。やはりこのようなものを年に1回とかやるというような予定なんですか。会議として。

(事務局)

こういった形式的な会議にはならないと思います。意見を言いやすいような雰囲気で行こうかなと思います。

(委員)

運営協議会というのは終わりなんですね。新たにボランティアスタッフを申し込めばそっちの方で活動するということですね。

(事務局)

そうです。

(委員長)

運営協議会はこれでなくなるわけですね。だけれども、要望としては是非応援してほしいと。応援してほしいということで、この会に入ってほしいということですね。今まで運営協議会をやられた方は入っていただきたいと。入っていただいても、ガイドの人たちと同じく毎週出てくるとかそういうことは一切ないと。但し、何かの時にご案内がいたりするっていうことなんですね。

(事務局)

ボランティアという言葉がここにきて何か説明しなければならないという意味だと感じるかもしれませんが、応援の形はここにガイドに来ることだけではないので、見守っていただければ有り難いです。

(委員長)

応援者として名前を挙げておくというっていうことですね。宜しくお願ひしたいと思います。名前がないとどうしようもありませんので。

(館長)

場合によっては、こういうような会をもってご意見を聴収するなんてこともあるかもしれませんが。私個人としては、ざっくばらんにお茶でも飲みながら、話をいただくということはやらせていただければ有り難いなあと。それでボランティアということですので、自分の都合のよい日にち、時間においでいただけることであればおいでください。或いはさきほど申し上げたように、地域の宝の掘り起しや情報の提供、資料収集、そういうことも資料館の重要な仕事ですので、そういったことについてご意見をいただくという会として集まっただくということはあるかと思います。決してガイドボランティアだけがボランティアではありませんので、そういうことを含みおきいただいて、是非ご加入いただければ有り難いですね。

(委員)

また一言意見を述べさせていただこうと思います。だいたい私も理解したつもりですが、要するに今後のことにつきましては、地域課とむしろここにおける館長が「このように運営してやりたい」という基本線に沿ってですね、我々はその要望に応えられていくという姿勢で、今後のことについて館長さんが全体に方向についていちいち諮問しなくても、私らがついていくというのでいいのじゃないのかと思います。

(委員長)

だいたいお分かりいただきましたでしょうかね。皆さんの意見がありましたのでそういうことで宜しく願います。あと残ったのが、検討課題として今後も定期的に会合を持つかどうか。これは事務局にお任せするしかないですね。事務局が「集まってもらいたい」となれば出かけてくるという形になると思います。そんな形でよろしゅうございますかね。

(館長)

年一回位持ちたいと考えています。

(委員長)

年一回位は案内がいくと思いますが、そうしたら出てきていただければ。いろんな意見をいただけたら有り難いです。ボランティアスタッフジャンパー、これは私はあった方がいいなあと思いますが、できたら亀田縞で作っていただきたいですね。

(館長)

なかなか予算が伴いませんので。

(事務局)

こちらとしては応援していただくために可能な範囲でご用意する、ということです。

(委員長)

ありがとうございました。ひとつ要望があるんですけども、応援する会ができたんですから、研修の機会を持ってほしいなと思います。例えばバスで出かけて行って勉強してくるとか。バス代などはこちらの方から出していただいて。それを要望しておきます。折角ですからね。他のところを見るのも参考になると思います。我々自身が勉強したいと思います。

(委員)

年に一回位研修っていうのも大事ですね。

(委員長)

これで終わりたいと思いますが、ほかにありませんでしょうか。是非このことだけはというのがありましたら。では、これで終わりたいと思います。これ

でいわゆる協議会というのがなくなるわけですが、本当に今までありがとうございました。心から御礼申し上げます。

(館長)

ありがとうございました。

(事務局)

これで第2回の郷土資料館運営協議会を終わりたいと思います。午前中からありがとうございました。

(委員長)

どうもありがとうございました。

(以上)